

第1回
今治市都市再生協議会
(公共空間再編専門部会)

令和8年7月30日(木) 15:00～

1. 前年度の専門部会・協議会の振り返り
2. 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
 - 事業概要（背景・位置づけ・ロードマップ等）
 - 再整備で目指す将来像と計画案
 - 社会実験の実施概要案
 - 市民への情報周知に向けた取組
3. 意見交換①
4. 中心市街地における関連する検討・取組について
 - シビックゾーンでの公共施設整備
 - 中心市街地全体での都市基盤整備
5. 意見交換②
6. 今後のスケジュール

1. 前年度の専門部会・協議会の振り返り

- 2つの会議体の設置（昨年8月19日に実施した都市再生協議会にて承認済）
 - 「**今治市都市再生協議会**」：都市再生整備計画の作成と検証
 - 「**専門部会**」：個別事業及び社会実験の検討

今治市都市再生協議会

- 都市再生整備計画の作成及び変更
- 都市再生整備計画関連事業の実施及び効果検証（R8以降）
- 中心市街地まちづくり（公共空間デザイン）の検討【総合的審議】

《構成》学識経験者、関係団体（経済・商店街等）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

都市再生整備計画の
作成と検証

報告 ↑ ↓ 付託

専門部会（協議会の下部機関）

- 中心市街地の公共空間再編整備の事業化検討
- 上記に関連する社会実験の検討・実施
- 中心市街地の公共空間デザインに関する検討【実質協議】

《構成》公共交通事業者、学識経験者、関係団体（商店街）、まちづくり関係者、関係行政機関、市

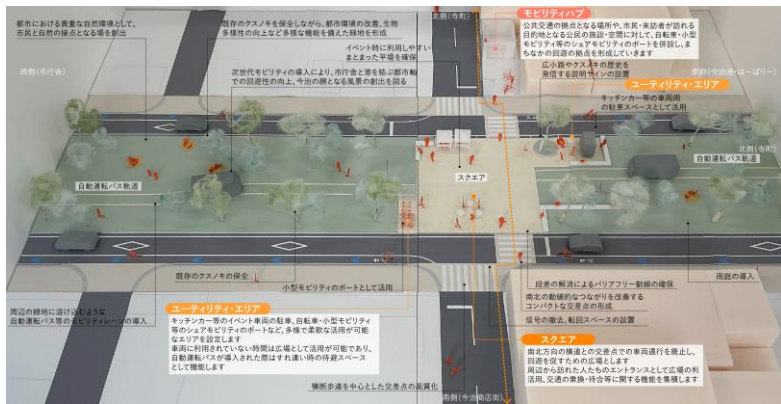
個別事業及び社会実験の検討

本日の会議体

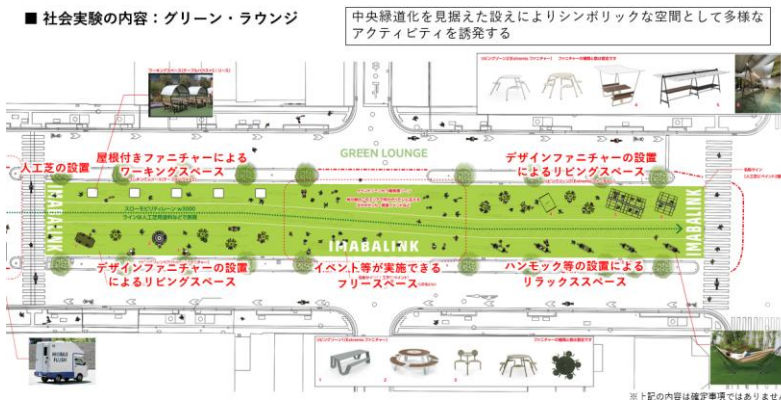
主な議題①：広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

第1回専門部会

- ・ 整備方針や空間デザインの検討案を提示
- ・ 社会実験の実施イメージ案を提示



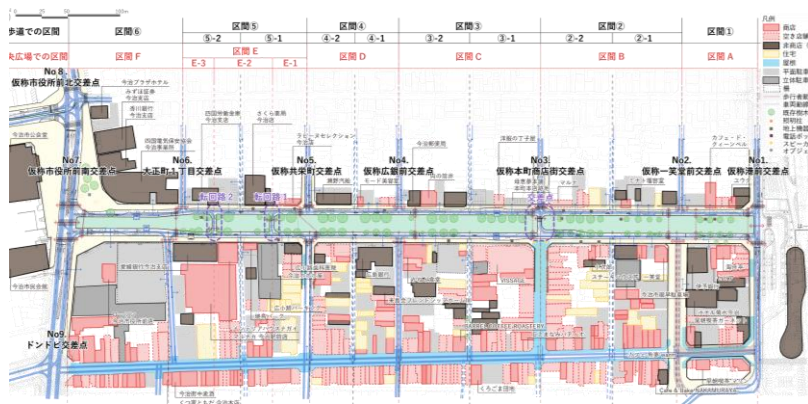
空間デザインの検討案



社会実験の実施イメージ案

第2回専門部会

- ・ 沿道・周辺環境の分析、交通量調査結果の分析を踏まえた計画案を提示
- ・ 中央広場の整備・活用イメージを提示
- ・ 社会実験の目的、交通規制・安全管理のイメージ、ロードマップ等を提示



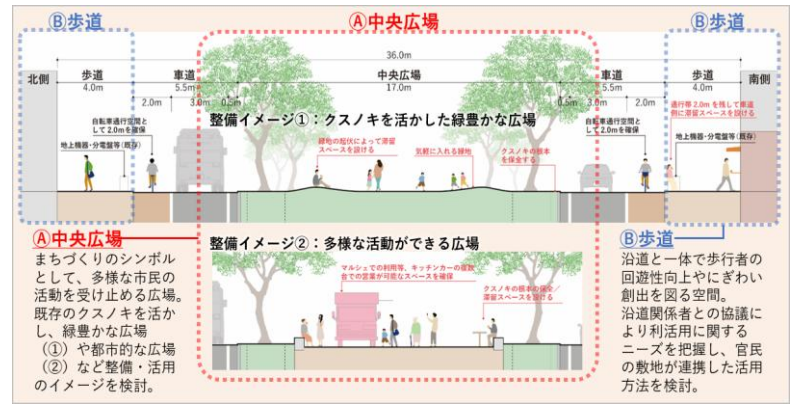
沿道・周辺環境、交通量調査結果の分析を踏まえた計画案

社会実験実施に向けたロードマップ											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(1) 社会実験の内容	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討	実施内容の企画・検討
(2) 交通規制・安全管理	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成	交通規制の内容検討、構造物・誘導等配置計画の作成
(3) 関係者調整	沿道等関係者	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明
(4) 広報・周知	広報・周知	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明
(5) 評価・検証	評価・検証	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明	個別説明
(6) 運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）	運営体制（提案事項）
その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

社会実験実施に向けたロードマップ案

第3回専門部会

- ・ まちづくりにおける広小路の位置づけや公共空間デザインの検討案を提示
- ・ 社会実験の企画検討案やコア会議の実施イメージを提示
- ・ 関係者協議の進捗状況を共有



公共空間デザインの検討案

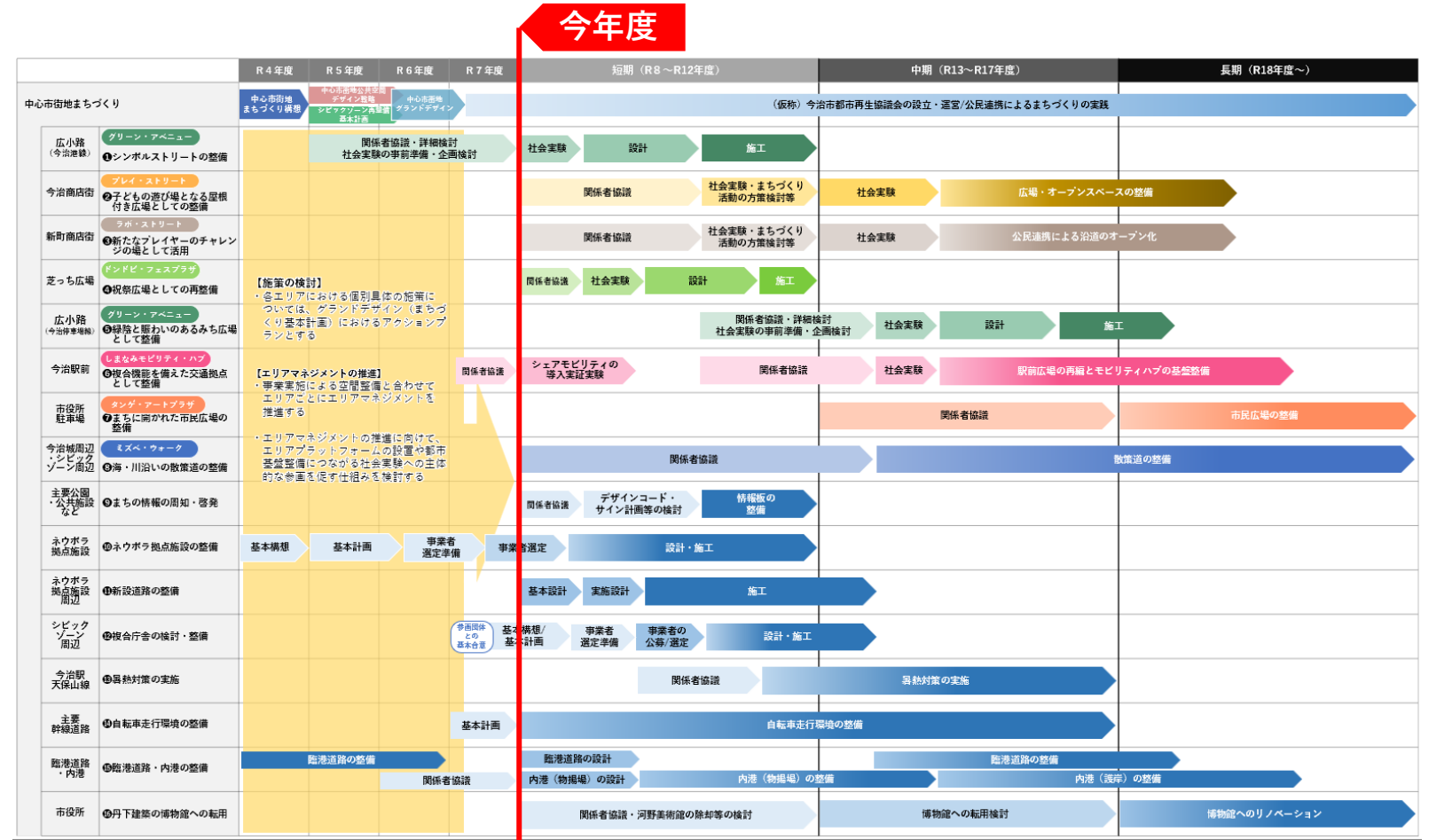
コア会議の実施イメージ		
○準備会 (2/12 (木) web開催)	○キックオフ会 (3/11 (水) 対面開催)	○公募・WG (5月以降)
●「コア会議」の理解について 足並みをそろえる ●社会実験を「自分ごと」として 検討していただく	●コアメンバーが一堂に会し、 関係性を築く場とすること ●社会実験の方向性についての 意見交換・整理	①ワーキンググループの メンバー・実施内容の公 募 (5月) ②ワーキンググループの 開始 (6月～) ※WGではコアメンバー を中心にしたチーム編成 で検討を行うイメージ ・チームごとに具体的に 内容検討 ・準備、各種調整 ・実施期間中の運営など
【想定する実施内容】 ①コア会議の意図・目的等の説明 ②全体的なスケジュール案 ③キックオフに向けての準備 ・将来ビジョンの実現に向けて 「大切にしたいこと」 ・広小路や中心市街地で将来や りたいこと 等についてご自身の活動の観点から 検討していただく	【想定する実施内容】 ①前回の振り返り ②事前検討内容の共有・意見交換 ⇒大判図面を囲みながら意見交換 ③今後の進め方について意見交換 ・検討を広げていく際の 配慮点・懸念点の整理 ・次回以降の進め方の確認	●会議の意見を実行可能 な場にする ・検証項目 ・具体的なプログラム案 などの検討 ※進め方はキックオフ会 の様子を見ながら調整 ※3～4週で週間開催予定

社会実験の検討を担うコア会議の実施イメージ

ロードマップからみた今年度の位置づけ

7

- 都市再生整備計画（第1期）に基づく事業実施の初年度
- 先行プロジェクトとして県・市協働で進められている広小路（今治港線）の再整備について、次年度以降の設計検討へスムーズにつなげるため、社会実験等を通じた効果検証と合意形成、事業スケジュールを見据えた適切な計画・設計を連動して着実に進めることが求められる
- その他、中心市街地における公共施設・公共空間整備に向けた計画・設計を連携させ、今治市中心市街地まちづくりの推進を図ることも求められる



- 主な議題①：広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
- 主な議題②：中心市街地における関連する検討・取組について

2. 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について

【まちづくり検討段階（2022～2025）】

地域との対話



将来像の検討



道路空間の比較検討
（歩道拡幅案・中央広場案等）



中央広場案が高評価



グランドデザインへ位置付け



【事業化段階（2026～）】

再整備方針（案）の検討



交通シミュレーション＋社会実験



検証・関係機関協議



再整備方針決定



概略設計



設計・整備

まちづくり検討段階では「目指す姿」を整理しました。

今年度以降の事業化段階では関係者協議、社会実験等を通して再整備方針等を決定します。

【背景・位置づけ】

- 令和7年に『今治市中心市街地グランドデザイン』を策定
- 中心市街地に集まる様々な魅力・資源をヒト中心の空間でつなぎ、回遊の生まれるまちづくりの将来ビジョンを掲げる
- 将来ビジョンの実現に向けて、段階的な事業実施イメージを示すロードマップが示されており、広小路（今治港線）は先行整備事業に位置付けられている
- 広小路は県道であるため、愛媛県・今治市が連携して再整備事業を進めている



将来ビジョンの実現化方策の一つとして、広小路（今治港線）での道路空間再編整備を検討

【背景・位置づけ】

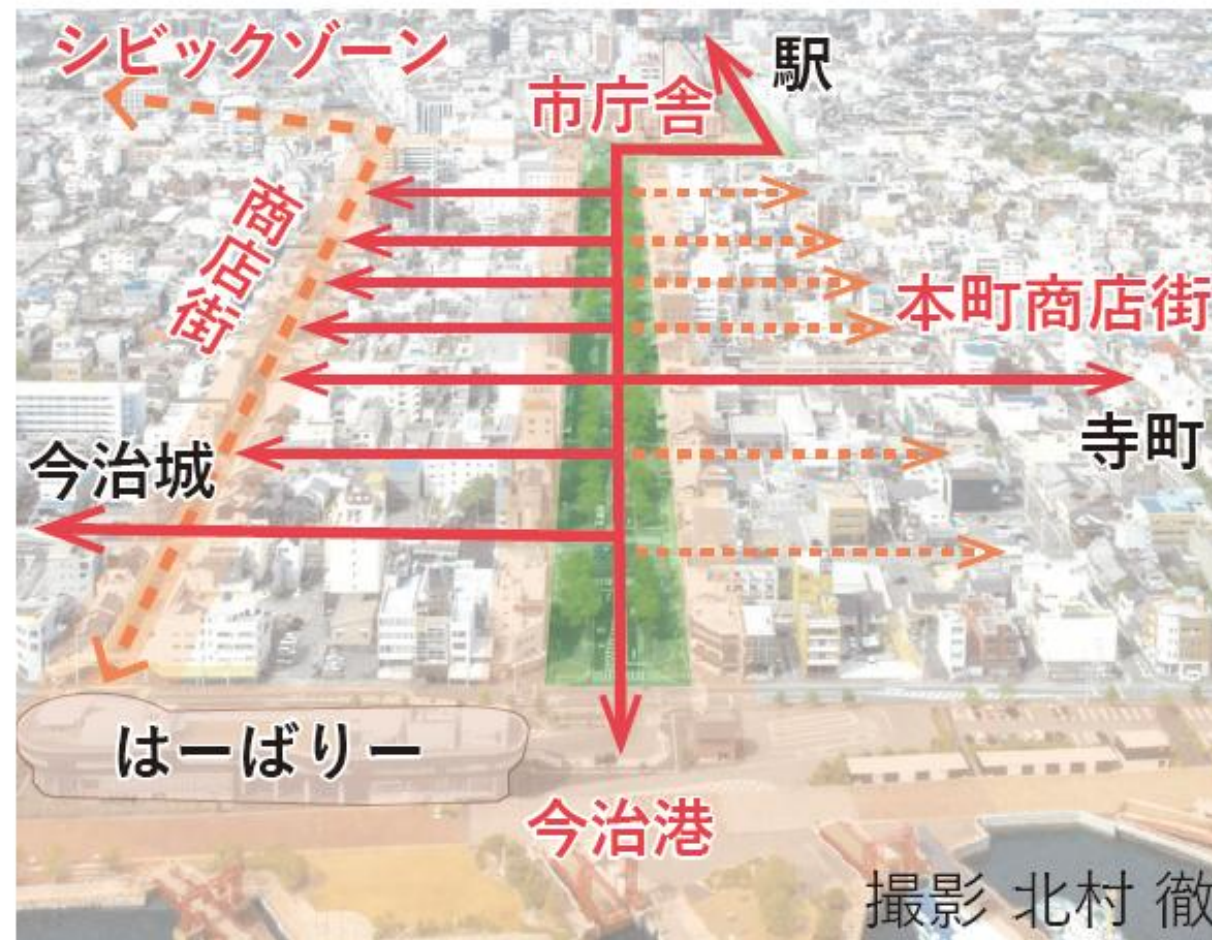
- 港- 市庁舎- 駅をつなぐまちのシンボルストリート
- 近年は『せとうちみなとマルシェ』や商店街での新規出店など、まちのにぎわい創出につながる新たな取組がみられている
- 一方、現在は市民の訪れる目的地となる場所が点在し、それらを結ぶ回遊にはつながっていない



みなとマルシェ



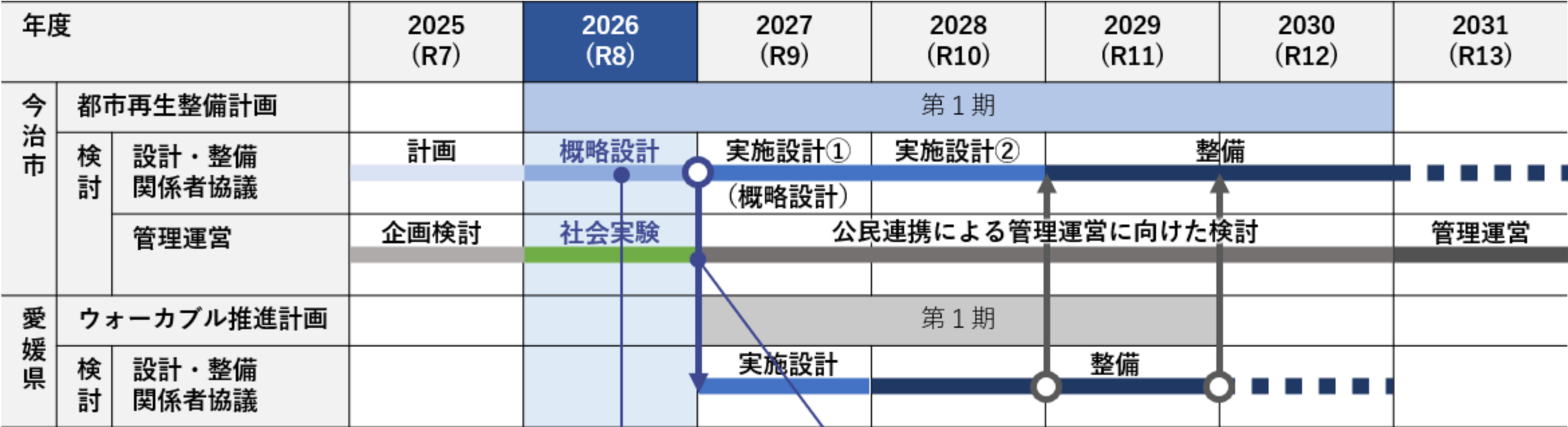
商店街での新規出店



広小路（今治港線）は港や商店街等でスポット的に生まれているにぎわいをまち全体に広げていくパイプとして重要な役割を担う

再整備に至るロードマップ（案）

※現時点での想定であり、継続して関係者と協議調整を行う 12



ゴール①：広小路（今治港線）再整備方針の合意形成

ゴール②：概略設計（案）とりまとめ

※昨年度の専門部会・協議会の内容を基に作成



本年度目指すゴール

ゴール①：広小路（今治港線）再整備方針の合意形成

社会実験を契機に、多様な関係主体と再整備方針の合意形成を進める

ゴール②：概略設計（案）とりまとめ

令和9年度以降の道路の実施設計にスムーズにつながるよう、道路管理者及び交通管理者と設計条件・整備方針に関する合意形成を進め、概略設計（案）としてとりまとめる

日常的にまちを訪れ、
回遊を生むきっかけをつくる
活動・滞留のための『みち広場』

「みち広場」とは

- 車の移動のためだけの「道路」からまちを訪れるきっかけとなるような活動・滞留のできる「みち広場」に

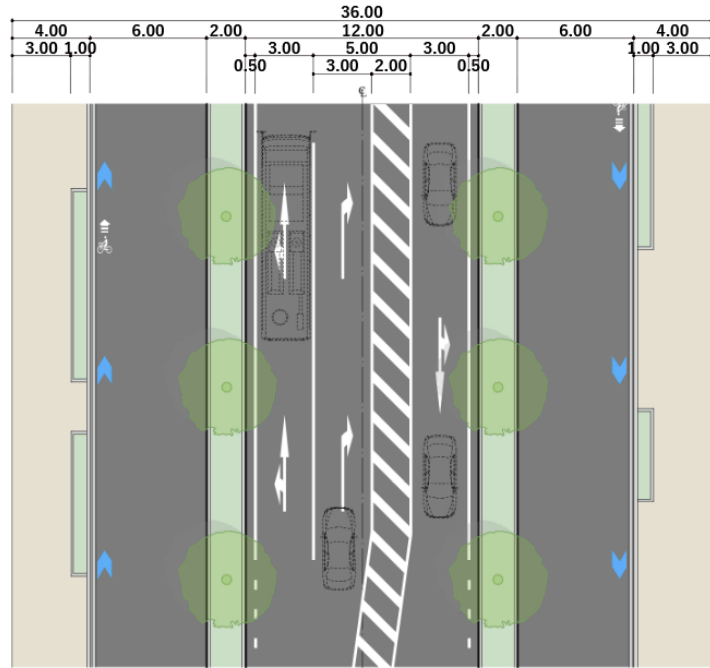
将来像の実現に向けた取組

- ①交通検証に基づく道路空間再配分により、歩行者空間を創出
- ②日常的に多世代が訪れたくなる滞留・活動スペースの形成
- ③多主体による活用を促す環境整備
- ④沿道・周辺での取組支援と連携強化

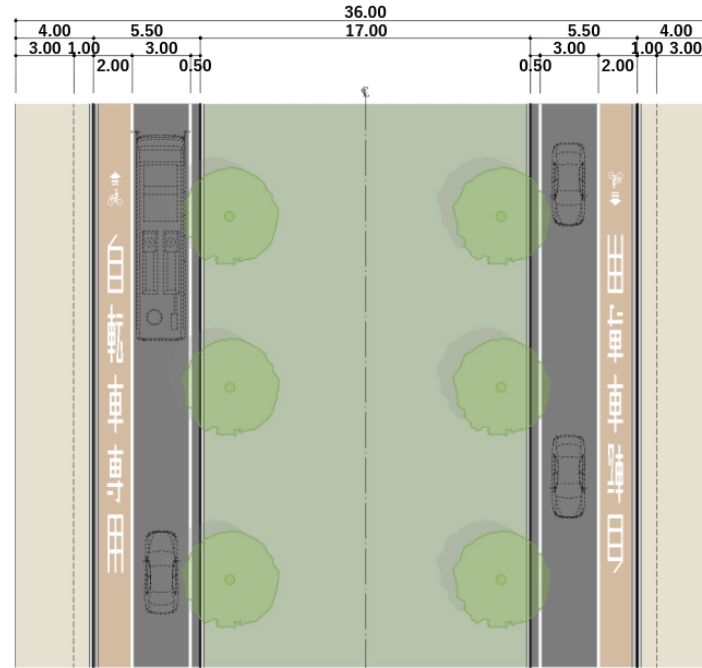


目指す将来像を実現する上で、道路空間再配分のみでなく
整備・活用・管理など多方面のアプローチを緊密に連携させていくことが必要不可欠

現況



前年度の計画案

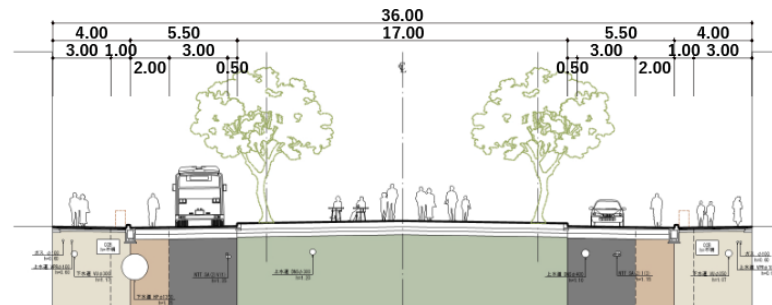
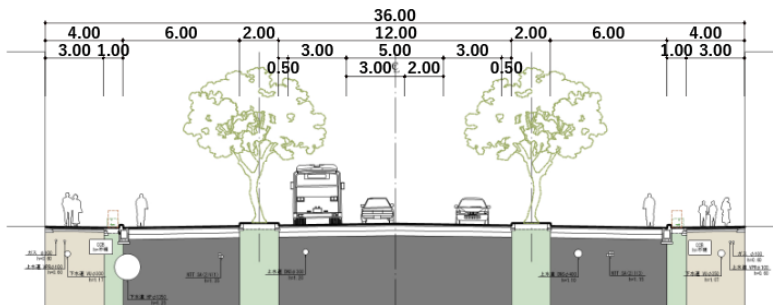


関係者協議等での主なご意見

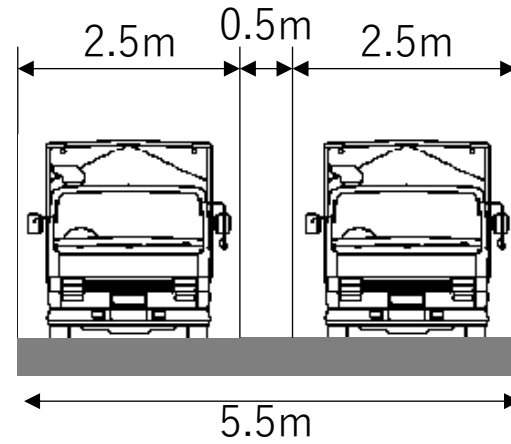
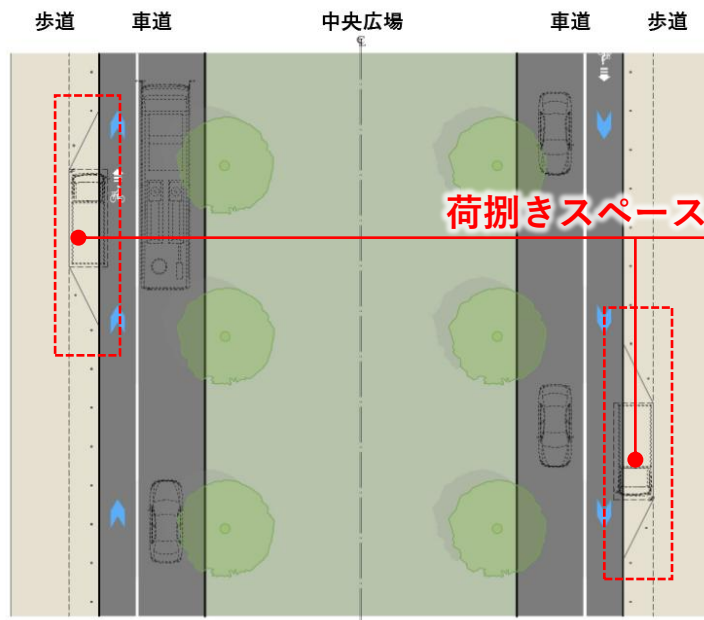
- 荷捌き車や緊急車両等による駐停車が生じた場合の逃げ場がないため、交通の円滑性を確保できないのではないか。
- 現在の側道側ではクスノキの枝が伸びており、バスなど大型車の走行に支障が出る恐れがある。



交通円滑性・安全性の観点から
整備計画案を再検討



現在の整備計画案



(出典：道路構造令第10条の2)

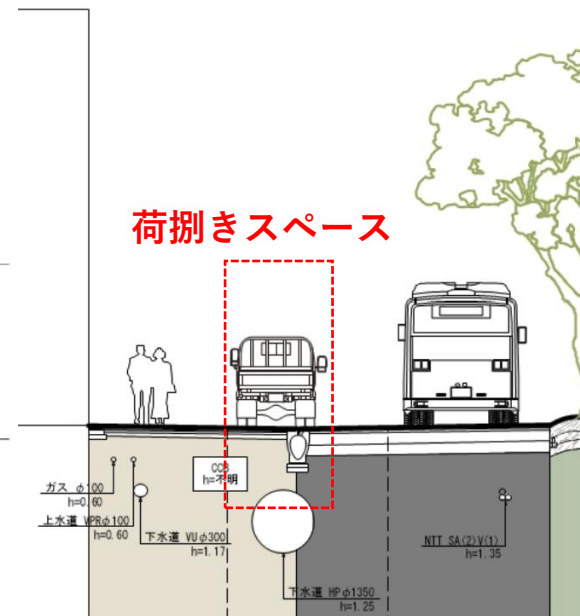
【計画案の考え方】

（１）緊急車両の通り抜けが可能な幅員設定

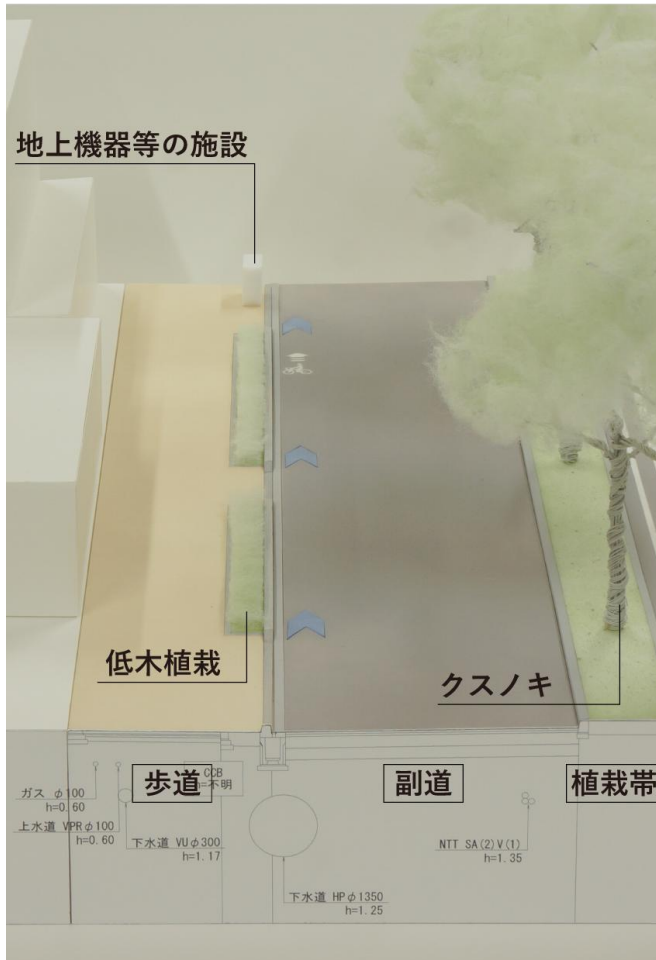
- ・車両が路肩に停車した場合でも緊急車両の通行が可能な幅員（5.5m）を確保
※広小路は「一次緊急輸送道路」指定の道路であり、緊急車両の通行機能の確保が必要

（２）自転車通行空間の整備形態の工夫と荷捌きスペースの設置の検討

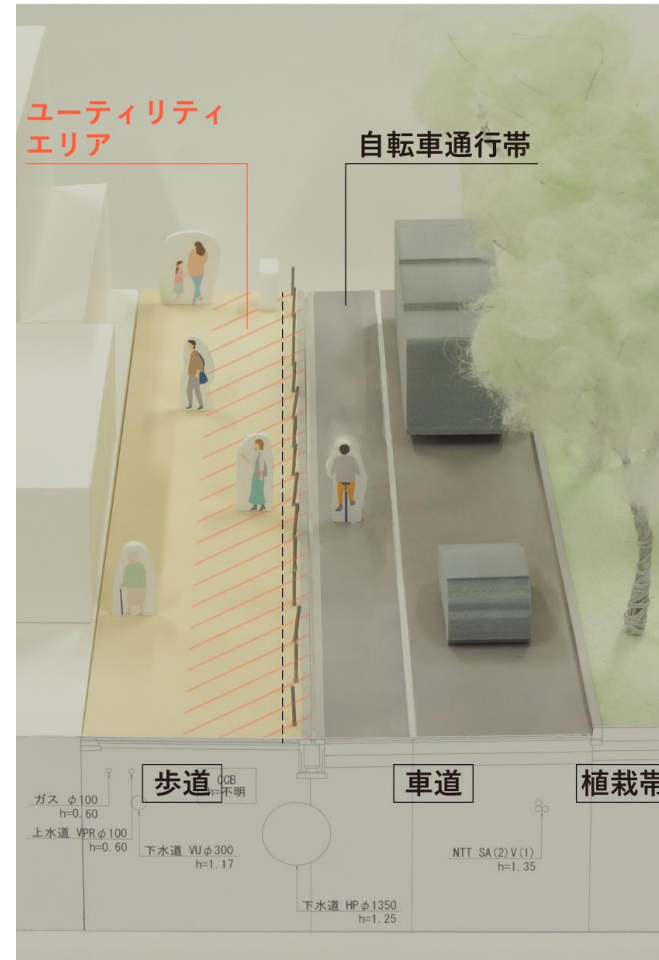
- ・路肩に設ける自転車の通行空間として、荷捌きや緊急車両通行時の駐停車に対応可能な整備形態（車道混在）を検討
- ・沿道で荷捌きニーズが高い場合、歩道に切込みを設けて停車帯の確保を検討
※停車帯以外の路肩は、緊急車両通行時の一時的な退避を除き原則駐停車禁止



現況



現在の整備計画案



【計画案の考え方】

（３）沿道・中央広場と連携した歩道の活用

- 歩道内に沿道・中央広場と連携した柔軟な活用が可能な「ユーティリティエリア」を確保
- 活用が想定される主な項目は下記：
 - ①バス停車帯
 - ②タクシー乗降場（停車帯）
 - ③荷捌きスペースの停車帯
 - ④モビリティポート
 - ⑤滞留スペース
 - ⑥歩道

活用例①：バス停車帯



活用例②：荷捌きスペース



活用例③：モビリティポート



活用例④：滞留スペース



今後の関係者と協議を進め、配置・規模・仕様等を検討



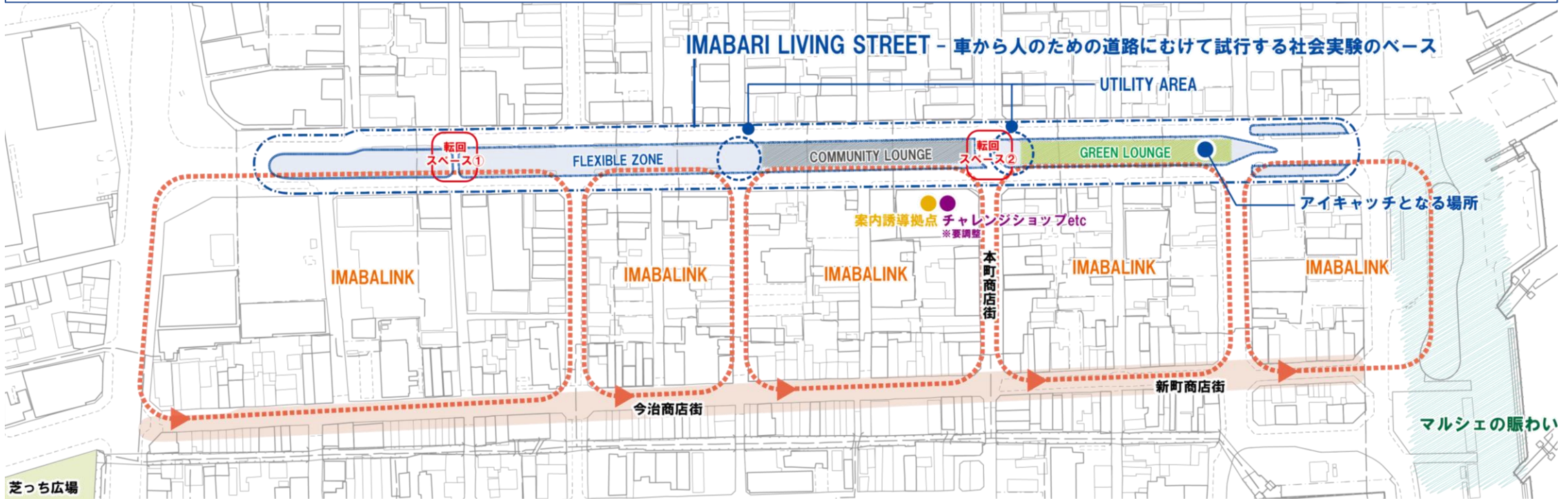
滞留・活動の場となるみち広場のイメージ

整備計画案による効果・課題等を把握し、改善策を検討するための社会実験を実施予定

■社会実験の概要（昨年度時点）

- ・【実験対象】 広小路周辺（商店街や港との連携した取組を検討することで回遊性の向上を図る）
- ・【実験期間（仮）】 11月9日（月）～22日（日）（うち、1日は「せとうちみなとマルシェ」実施日）

実験のテーマ（案）： 広小路・商店街・みなとが一体となって実施する社会実験『（仮称）IMABALINK』



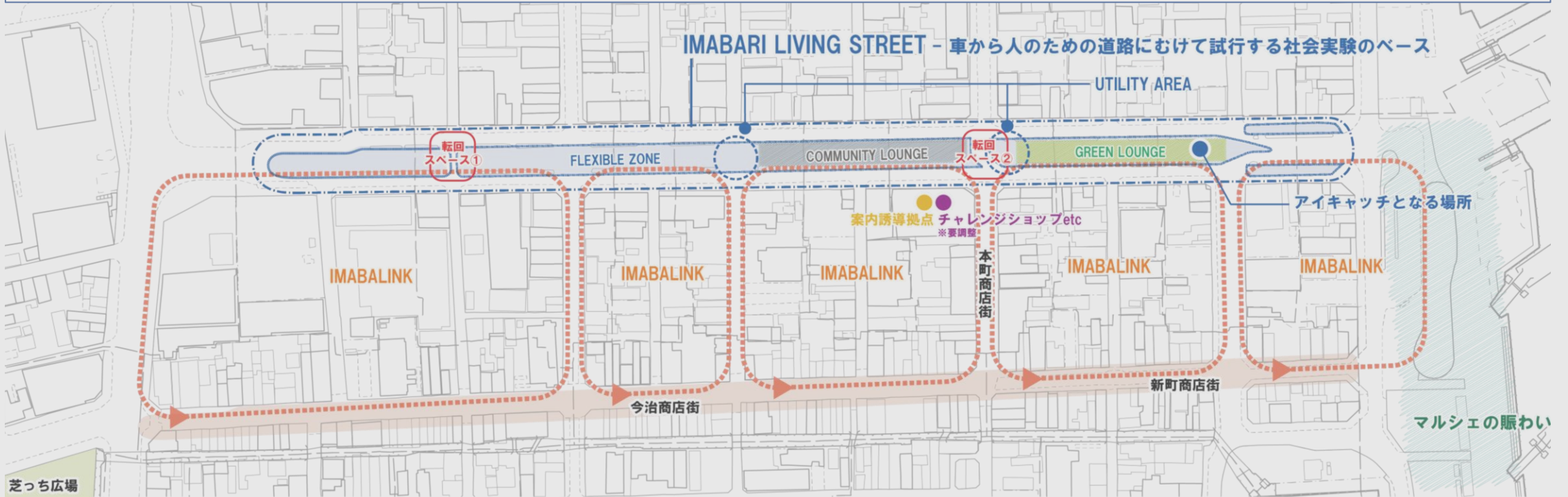
社会実験の全体像や実施テーマ等を事務局で仮案を作成→こちらをベースに議論

■社会実験の概要（現時点）

- ・【実験対象】 広小路周辺（商店街や港との連携した取組を検討することで回遊性の向上を図る）
- ・【実験期間（仮）】 11月9日（月）～22日（日）（うち、1日は「せとうちみなとマルシェ」実施日）

➡ 大きな変更なし

実験のテーマ（案）：広小路・商店街・みなとが一体となって実施する社会実験『（仮称）IMABALINK』



➡ 関係機関・事業者や地域の方々（コアメンバー）と意見交換を行いながら、実験時の検証テーマや実施内容は大きく更新しており、現在も11月の社会実験実施に向けて検討を重ねている

- 社会実験は、**一過性のイベントではなく将来像の実現に向けた取組のアプローチを、実際の現場で試行すること**を目指し、4つのテーマから検証を実施

(将来像) 日常的にまちを訪れ、回遊を生むきっかけをつくる活動・滞留のための『**みち広場**』

【将来像の実現に向けた取組のアプローチ】

【現況】



【将来イメージ】



アプローチ① 道路空間の再配分

「道路」を市民の集う「みち広場」へ変える



アプローチ② 日常を彩る空間デザイン

訪れたい「みち広場」へと充実させる



アプローチ③ 活用を促進する環境整備

「みち広場」を活用した取組を支援する



アプローチ④ 沿道・周辺との連携強化

「みち広場」をきっかけに沿道を活性化する

【社会実験の検証テーマ】

1 交通の検証

「中央広場案」のレイアウトを試行することで、交通に関わる課題を抽出し、改善策の検討につなげる

2 日常の検証

散策・滞留・遊びの空間を仮設的に整備し、様々な利用者に空間を体験してもらいながら、訪れたい空間デザインに向けた要点を抽出する

3 チャレンジの検証

「みち広場」となる広小路での活用の可能性を共有し、持続的な活用に必要なハード・ソフトの環境整備の要点を抽出する

4 沿道との連携の検証

沿道関係者が広小路で実現したいこと、空き店舗等を活用して地域のプレイヤーが将来実現したいことを試行し、さらなる活用に向けた機運を醸成する

【社会実験の検証テーマと検討体制】

1 交通の検証

「中央広場案」のレイアウトを試行することで、交通に関わる課題を抽出し、改善策の検討につなげる

➡ 警察や県、交通事業者など、主に関係機関・関係者等と検討（6/26, 7/21に県・警察との合同協議を実施、バス・タクシー事業者にもヒアリングを適宜実施）

2 日常の検証

散策・滞留・遊びの空間を仮設的に整備し、様々な利用者に空間を体験してもらいながら、訪れたい空間デザインに向けた要点を抽出する

3 チャレンジの検証

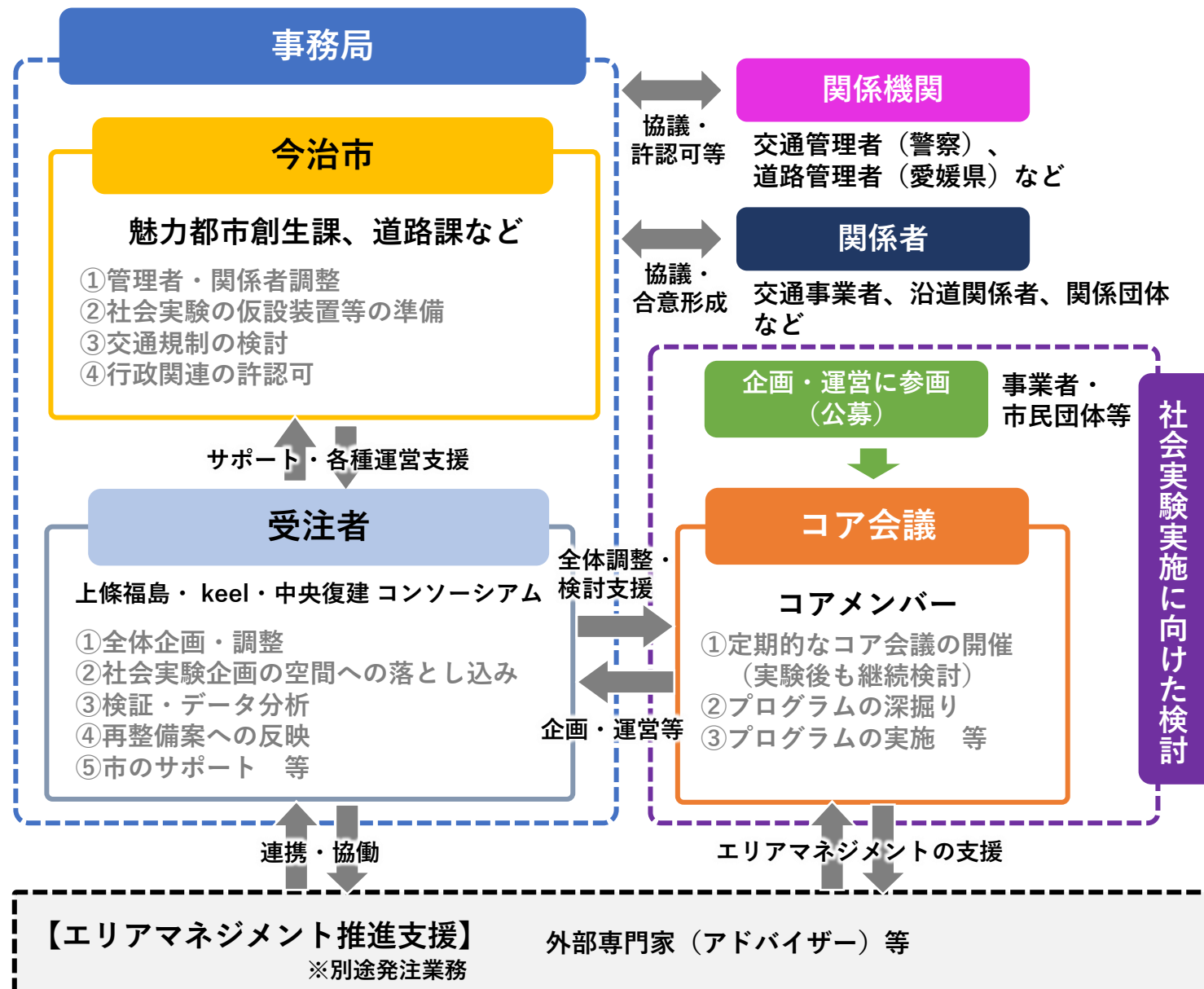
「みち広場」となる広小路での活用の可能性を共有し、持続的な活用に必要なハード・ソフトの環境整備の要点を抽出する

4 沿道との連携の検証

沿道関係者が広小路で実現したいこと、空き店舗等を活用して地域のプレイヤーが将来実現したいことを試行し、さらなる活用に向けた機運を醸成する

➡ コアメンバー、沿道関係者など、主に地域の方々と一緒に検討（コア会議）

社会実験の検討体制



- コア会議では、**社会実験における広小路の利活用の方向性及び検証項目**を設定するとともに、その検証を行うための**具体的な社会実験プログラム案**を検討している（エリアマネジメント推進支援業務と連携しながら、今後も継続的に開催）

【コア会議の実施内容】

準備会 ※オンライン開催

2/12（木）

キックオフ会（第1回コア会議）

3/11（水）

第2回コア会議

3/31（金）

※第2回～第3回の間は、
チームに分かれて個別検討

第3回コア会議

6/19（金）

第4回コア会議

7/16（木）

- コア会議の趣旨・位置づけについての共通理解
- 社会実験を「自分ごと」として捉えていただくための整理

- コアメンバーが一堂に会し、関係性を築く場とすること
- 社会実験の方向性についての意見交換・整理

- コアメンバーの思いや実現したいことを踏まえて、社会実験という機会を活かすための前提条件について整理
- 個別ヒアリング結果に基づく具体的なプログラム案、今後の進め方について意見交換

- 社会実験の実施内容（素案）の確認
- 公募等の市民参加の実施方針について
- 広報・VIの考え方について意見交換

- 中心市街地まちづくりの全体像の整理
- デザインチームによるPJ名称の検討結果
- 各実験コンテンツの検討状況の共有（公募・広報の実施方針含む）



準備会



キックオフ会（第1回コア会議）



第4回コア会議

1 交通の検証

車道境界に保安設備を設置し「中央広場案」のレイアウトを空間上に現出

検証内容

- (1) 中央広場案による交通円滑性・安全性に対する影響を調査し、改善案の検討に向けた課題を整理
- (2) 沿道関係者・交通事業者等による実験の影響・評価等を調査し、合意形成に向けた課題を整理

◎メインターゲット：市民・観光客等（運転者・歩行者）、交通事業者）



※交通規制の内容等は想定であり、関係機関等との協議の上、決定します

【検証項目（案）】

- A) 交通円滑性・安全性
 - 副道、交差点、迂回路で渋滞等が発生していないか混雑状況を検証
 - モデルケースで設置を検討した転回路が円滑かつ正常に機能しているか検証
 - 荷捌き車両等による交通阻害が発生していないか検証
 - 歩行者の安全性が確保されているか
- B) バス交通の円滑性・安全性
 - 定時運行ができていないか検証
 - 自転車とバス動線の交錯に問題が生じていないか検証
 - 荷捌き車両等による交通阻害が発生していないか検証
- C) 荷捌きスペースの配置・容量・安全性
 - 荷捌きスペースの集約化による横待ちで問題が生じていないか検証
 - 荷捌きバス数に不足がないか検証
 - 自転車と荷捌き動線の交錯に問題が生じていないか検証
- D) 沿道の営業への影響
 - 沿道店舗の営業に悪影響がないか

【評価手法（案）】

- ◆ 交通量調査
主要交差点における実験中の交通量調査（別途発注業務）結果と昨年度実施の調査結果の比較・分析より、実験中の交通流の変化による周辺への影響等を検証
【検証項目：A～C】
- ◆ 現場確認
周辺交通への影響や荷捌き、バス交通、タクシー交通等について、事前に確認すべき事項を整理した上で、現場で状況を調査・把握
【検証項目：A～D】
- ◆ 街頭アンケート調査
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：A・D】
- ◆ 関係者へのヒアリング調査
実験終了後に、沿道関係者・交通事業者等に対して、実験による影響や事業効果、評価等を調査・把握
【検証項目B～D】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

- ◆ 再整備計画への反映
道路空間再配分、交差点信号の運用、転回スペースや荷捌きスペースの必要性など
- ◆ 関係者への合意形成
警察、道路管理者、沿道関係者、交通事業者、市民など

2 日常の検証

滞留/散策/遊びの空間を仮設整備し、中央広場の利用を促す空間デザインのアイデアを試行

検証内容

- (1) 平日における滞留行動等を把握し、歩行回遊性に及ぼす影響を調査・分析
- (2) 実施期間中における仮設広場のリピート利用率を把握し、利用の習慣化につながる知見を整理
- (3) 仮設広場の歩行・利用環境に対する利用者の意見を把握し、空間デザインに向けた知見を整理

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：市民（特に広小路の周辺の事業者・居住者、学生・子育て世帯・高齢者）



【検証項目（案）】

A) 日常の滞留発生状況

イベントのない平日昼間における滞留行動を調査し、飲食や散歩など自発的な滞留行動が生まれているか検証

B) 利用の習慣化とリピート率

リピーターの有無を調査し、広小路の仮設広場が生活動線や休憩場所として定着しているか検証

C) 歩行・利用環境の改善視点

仮設広場の歩行・利用環境に対する参加者の意見を調査し、歩きやすく利用しやすい空間デザインについて具体的に検証

【評価手法（案）】

◆ 定点観測調査

広小路の特定区間において、滞留人数を定期的に計測し、滞留量の変化を調査

【検証項目：A】

◆ アクティビティ活動調査

歩行量分布・歩行行動・滞留行動の各調査を通じて歩行者の行動・動態等を把握

【検証項目：A】

◆ 街頭アンケート調査

実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握

【検証項目：B・C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

◆ 空間デザインの最適化

滞留の発生に寄与する設えの検討、回遊性向上を促すルート設定など

◆ 本整備に向けた関係者への合意形成

沿道関係者、市民など

3 チャレンジの検証

週末を中心に地域の多様な主体が
広小路を舞台に新たな企画に
挑戦できる実践の場を提供

検証内容

- (1) 実施したプログラムが市民・沿道関係者の道路空間活用に対する意識に及ぼす影響を調査・分析
- (2) プログラムに関わる主催者・参加者の意見を把握し、広小路の空間特性を生かしたプログラムの実現性・受容性や、必要なインフラ・設備に関する知見を整理

【検証項目（案）】

- A) 市民・沿道関係者の意識変化
道路空間の変化を肯定的に捉え、継続的な活用を望む機運が醸成されているか検証
- B) 試行内容の実現性と受容性
実施内容が広小路の空間特性を活かしつつ、持続可能な仕組みとなっているか検証
- C) 必要なインフラ・設備の検討
多様な活動を支えるために不可欠な設備や、追加整備が必要な機能を検証

【評価手法（案）】

- ◆ 街頭アンケート調査
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：A・B】
- ◆ 関係者へのヒアリング調査
実験終了後に、プログラム主催者・沿道関係者等に対して、実験による影響や空間の利便性、評価等を調査・把握
【検証項目A～C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

- ◆ 空間デザインの最適化
利用実態を踏まえ、安全で快適な空間レイアウトを導き出す
- ◆ 管理・運営ルールの策定検討
整備後の活用に向けた運用ルール等を検討する
- ◆ エリアマネジメントの推進
実験を通じた利活用ニーズの把握及び多様な主体の連携を通じてエリアマネジメントの機運醸成を図る

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：市民、観光客等（イベント参加者）、地域プレイヤー（主催者）



4 沿道との連携の検証

沿道・周辺の既存ストックと空間利用を連動させ、エリア一体となった回遊性・にぎわいを創出

検証内容

- (1) 空き店舗活用に関わる所有者・来訪者等の意見を把握し、沿道・周辺の空き店舗活用に関する課題や将来的な活用可能性に関する知見を整理
- (2) 沿道の連携した取り組みがエリア全体の魅力に及ぼす影響を調査・分析

※実施イメージは想定であり、実施有無や実施場所は関係者等と協議の上、決定します

◎メインターゲット：沿道関係者、商店街関係者、市民、観光客等（イベント参加者）



【検証項目（案）】

- A) 空き店舗活用の課題把握
実際の活用におけるハード・ソフト両面の課題を抽出
- B) 将来的な活用可能性の把握
実験での試行内容が、将来的な継続利用や定着につながるか検証
- C) 活動連携による相乗効果
沿道の個別活動が繋がり、エリア全体の魅力向上にどう寄与したか検証

【評価手法（案）】

- ◆ 関係者へのヒアリング調査
実験終了後に、沿道関係者・物件オーナー等に対して、実験による影響や空間の利便性、評価等を調査・把握
【検証項目A～C】
- ◆ 街頭アンケート調査
実験期間中の来訪者を対象に、来訪目的や過ごし方、満足度、今後の再整備に向けた意向等を調査・把握
【検証項目：B・C】

【検証結果のフィードバック方法（案）】

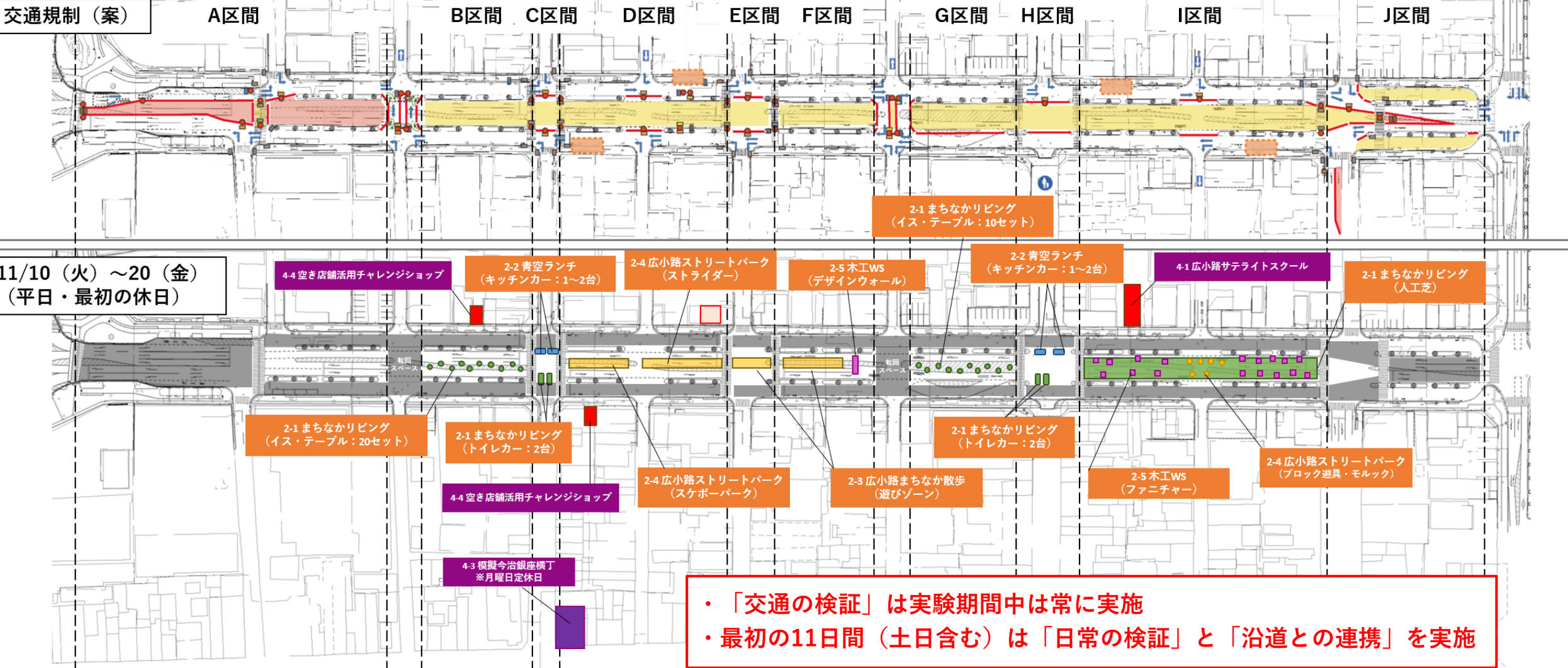
- ◆ 空き店舗活用サポート体制の検討
出店希望者と物件を繋ぎ、空き店舗の円滑な利活用を支援する仕組みを検討する
- ◆ 投資・出店意欲の意識醸成
エリアの将来像や魅力を発信し、民間事業者による投資や新規出店の機運を高める

社会実験の実施イメージ

※仮で配置した案であり、決定しているものではありません（今後、詳細に検討）

マルシェ
実施日

11/9 (月)	11/10 (火)	11/11 (水)	11/12 (木)	11/13 (金)	11/14 (土)	11/15 (日)	11/16 (月)	11/17 (火)	11/18 (水)	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
●設営													●撤収

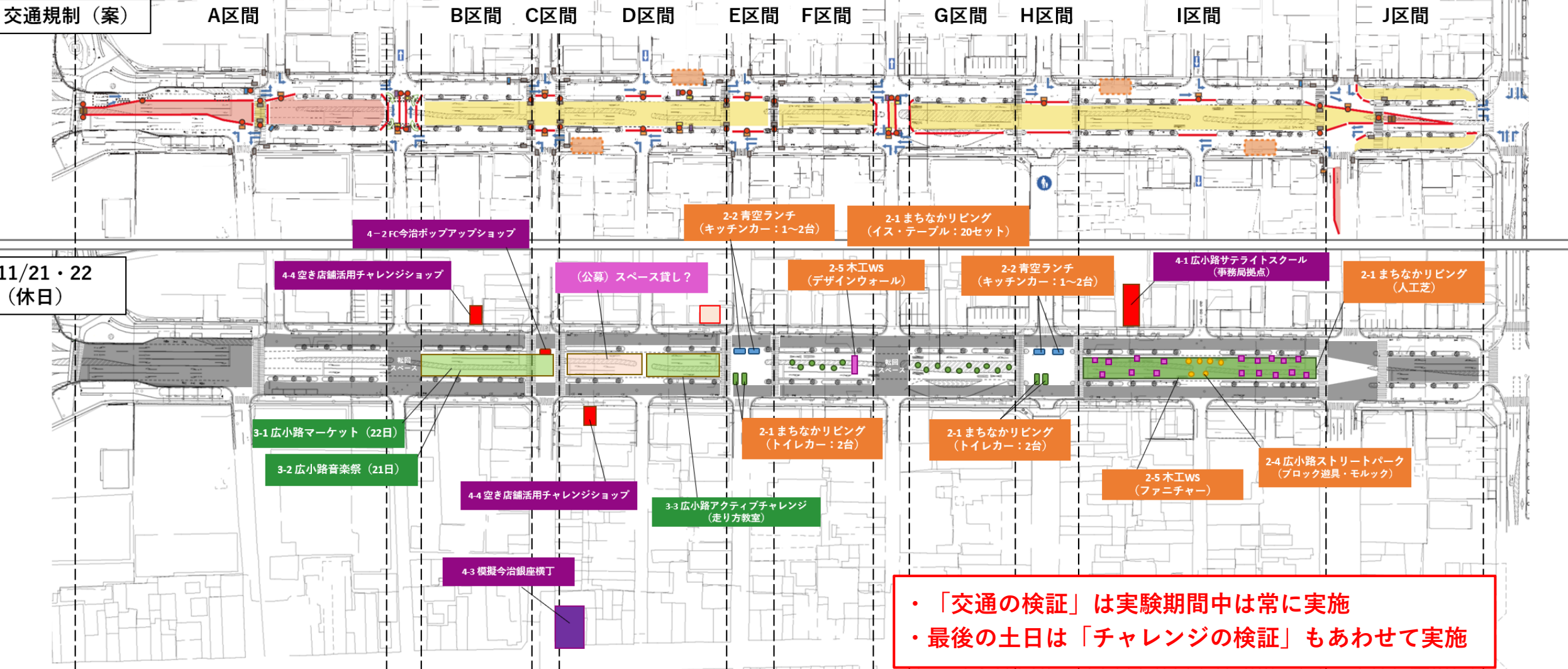


社会実験の実施イメージ

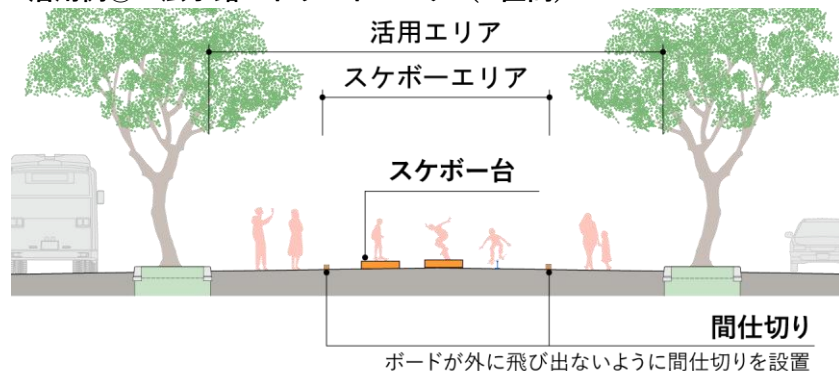
※仮で配置した案であり、決定しているものではありません（今後、詳細に検討）

マルシェ
実施日

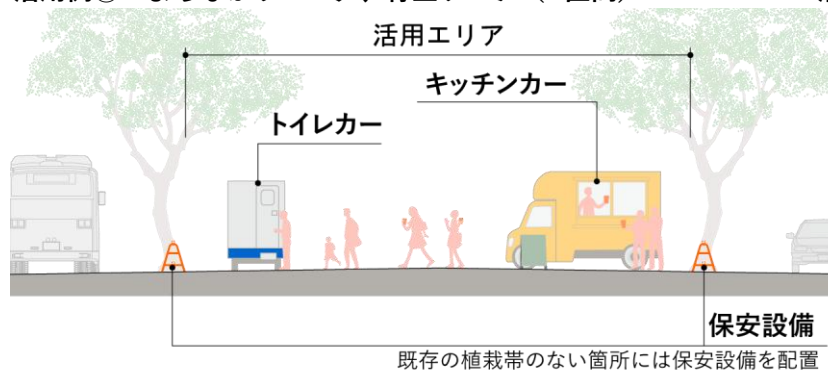
11/9 (月)	11/10 (火)	11/11 (水)	11/12 (木)	11/13 (金)	11/14 (土)	11/15 (日)	11/16 (月)	11/17 (火)	11/18 (水)	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
●設営													●撤収



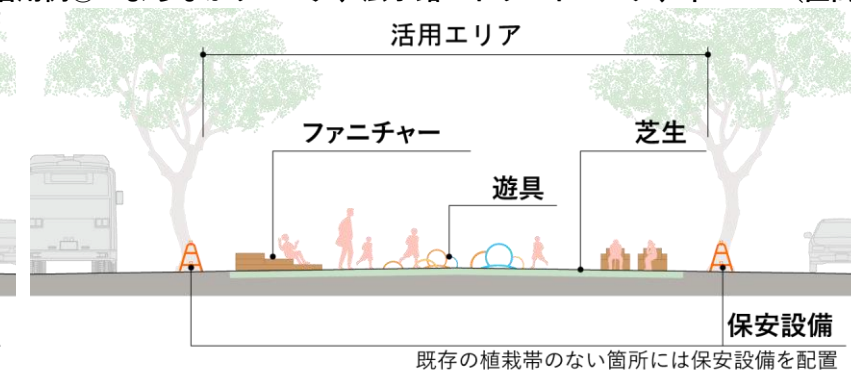
活用例①：広小路ストリートパーク（D区間）



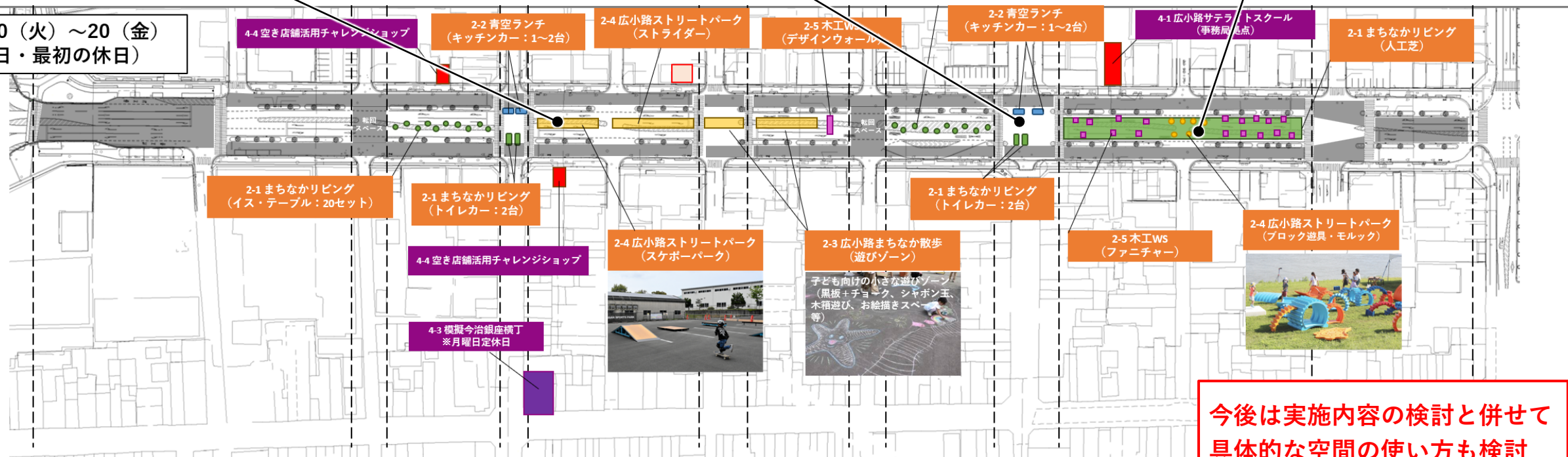
活用例②：まちなかりビング、青空ランチ（C区間）



活用例③：まちなかりビング、広小路ストリートパーク、木工WS（区間I）



11/10（火）～20（金）
（平日・最初の休日）



今後は実施内容の検討と併せて
具体的な空間の使い方も検討

社会実験で市民・団体等への参加を呼び掛けるもの

■ 実施コンテンツ

「2-3 広小路まちなか散歩」「2-5 木工ワークショップ」「3-1 広小路マーケット」「3-3 広小路アクティブチャレンジ」「4-4 空き店舗活用チャレンジショップ」

■ 実施コンテンツ以外に募集を呼び掛けるもの

「プレイヤー」…広小路の空きスペースを提案型で活用していただく市内で活動している団体

「サポーター」…社会実験のサポート（アンケート調査等の協力）していただく学生

「パートナー」…広小路の歩道空間の利活用と実験時の維持管理をセットで実施いただける沿道関係者

「スポンサー」…社会実験に協賛・協力いただける企業（実験に必要な物品から選定）



分類

公募

3-1 広小路マーケット

イベント
参加者

3-3 広小路アクティブ
チャレンジ

イベント
参加者

コンテンツの担当者と市・事務局で
募集の要件（・選定方法等）
を検討し、公募等を開始する予定

ターゲット型の公募

2-3 広小路まちなか散歩

市内の
児童施設・
高齢福祉施設

2-5 木工ワークショップ

市内の
高校生

4-4 空き店舗活用
チャレンジショップ

将来今治への
出店を見据え
ている方

プレイヤー

市内で
活動する
団体

個別打診

サポーター

愛媛大学
※研究活動
として

パートナー

広小路
沿道関係者

スポンサー

遊具等必要な
物品から選定

順次、声かけを実施予定

社会実験の企画・運営・効果検証におけるスケジュール

【今後の予定】

- 8月中の交通規制・実施内容等の確定を目指して、各項目の具体化に向けた検討を進める
- 市民等参加の要件等を作成し、公募を開始する
- 広報による効果的な情報発信を開始する
- 実験時の効果検証方法について検討を行う

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会実験実施計画書の作成		計画書の作成										
関係機関や関係者等との協議支援	警察・道路管理者	社会実験実施に向けた協議・意見交換の実施					最終調整		実施結果の報告等	本整備に向けた協議・意見交換の実施		
	沿道関係者・交通事業者等	個別ヒアリングの実施					最終調整		実施結果のヒアリング	本整備に向けた協議・意見交換の実施		
	地域プレイヤー	コア会議の実施 公募								実施内容の検証・今後に向けた検討体制の構築		
社会実験の実施支援	①交通の検証	実施内容の検討・協議結果の反映			物品等の調達・各種申請手続き	看板等の設置による周知		社会実験の実施	再整備計画への反映			
	②日常の検証	実施内容の検討			物品等の調達	設営準備			常設化等に向けた機運醸成			
	③チャレンジの検証	実施内容の検討・公募方針等の作成			物品等の調達・SNS等による広報	出店者等との最終調整			実施内容の検証・今後に向けた検討			
	④沿道との連携の検証	実施内容の検討・沿道店舗との調整			連携企画の確定・活用のルール調整	沿道関係者への事前説明			実施内容の検証・今後に向けた活用方法の検討			
影響調査・効果検証	街頭アンケート調査				アンケート調査計画の作成	実施準備			結果とりまとめ			
	関係者アンケート・ヒアリング調査				アンケート調査・ヒアリング調査計画の作成	実施準備			アンケート・ヒアリングの実施			
	アクティビティ活動調査（行動分析）				調査計画の作成	調査準備			結果とりまとめ			
	定点観測調査（滞留量調査）				調査計画の作成・機材準備等	調査準備			結果とりまとめ			
広報・情報発信・映像記録の作成	広報・情報発信				SNS等による広報・情報発信				SNS等による広報・情報発信（中心市街地まちづくりに関する内容）			
	映像記録の作成				映像記録のイメージ検討	作成準備			映像記録の作成・編集			
社会実験実施報告書の作成									速報版の作成	報告書としてとりまとめ		

社会実験の実施

- 社会実験を契機として広小路（今治港線）再整備に関わる情報を市民に広く周知することを目的として、現在の計画における考え方や将来イメージなどを示した概要資料を作成
- これまでの関係者協議等で頻出の質問に対してはQ&A形式で回答を整理することも検討し、再整備事業や社会実験に対する地域の認知度・関心を高めることを目指す（詳細は別添資料参照）

04. 再整備により目指す広小路（今治港線）の将来像と取組の方向性

▶ 車の移動のためだけの「道路」から、人を中心に活動・滞在できる「まち広場」へ
日常的に人の居る風景が広がる場となるよう、官民連携で整備・活用・管理の在り方を検討

両車線の移動のためだけの「道路」となっている広小路です。幅員に対して交通量は限定であり、隣地の開発が進められています。
現在は今治市街の中心部から中心部の中心部までの一帯として、市民がまちを回れるきっかけとなり、池や商店街などの場を巡る回遊を生むような中心部の活動・滞在のための広場（「まち広場」）として使っていくことを目指します。
目指す再整備を実現するための主な取組として、以下に三つのアプローチを整理しています。

- ① 交通検証に基づき道路空間再配分により歩行者空間を創出
- ② 多様な活動・滞在を促す公共空間のデザイン
- ③ 様々なプレイヤーによる公共空間の活用・管理を支援する仕組みづくり
- ④ 広小路再整備による波及効果を最大化するための沿道・周辺との連携強化

広小路の目指す将来像と取組のアプローチ

05. 広小路（今治港線）の「まち広場」の将来イメージ（案）

▶ 市民の集う緑の広場を活かした憩いの場
まち全体へにぎわいが広がる

道路空間再配分により生まれた歩行者空間は、緑場を活かした市民の日常の憩いの場として整備・活用・管理を検討しています。池や市街の中心部に沿って、景色は小川で分断されている周辺の場をもつづき、商店街やのどかなりと連携しながらまち全体に波及を波及させるところを目指します。

※現在幅員構成を含む再整備方針について検討・協議を進めている段階であり、今後の社会実装や関係者との協議調整を踏まえて決定する予定です

緑場を活かした憩いの場となる「まち広場」の将来イメージ（案）

※写真は議員懇話会と西宮市庁舎について設計・協議を進めている段階であり、今後の社会実験・関係者との協議調整を踏まえて決定する予定です。

06. 今年度実施予定の社会実験の目的

「みち広場」の実現に向けた取組の試行の場として、効果・課題等の把握や機運醸成につなげていくこと。このための様式を通じて「みち広場」の実現に必要だと考える取組を試行し、改善を図るため社会実験による検証を行います。またには交通空間再配置による影響を受け取る交通の検証、歩行者空間の活用可能性の検証などを予定しています。計画策定の効果・課題等を的確にするだけでなく、今後の実践的なまちづくりに向けた議論につなげていくことを目指します。

07. 社会実験における交通規制の概要

再整備後の検討案のうち「中央広場地区」を再現した交通規制を実施し、交通に対する影響を検証

道路空間の再配分については、副都心歩行者空間化による『歩道拡充計画』を本線として中央を歩行者空間化する「中央広場地区」などが検討されています。このうち、現在の道路幅を要するところより狭小の可成りで、敷地割りに基づいた路幅の縮減が主たる交通源の大きな変化を伴わずかつ、今年度の社会実験では「中央広場地区」も両側車交差型から片側二車線の交通方式へ変更となる見込みです。

08. 社会実験における活用可能性の検証の概要

① 道路空間再配分の歩行者空間を活用した取組を実行し、整備・活用に向けた課題・効果等を検証

広小間の整備後では、道路空間の再配分による歩行者空間の創出し、人の交流の増進、町並みの活性化などを実現することを目指しています。その中で、誰もが気軽に立ち寄り通えるような環境づくり、イベント等にもよむための広場、沿道・周辺に連なる憩いの場の創出なども重要であることです。他、地域でもっとも身近に接する機会を持っている民間プレイヤーの参入も考慮しながら、歩行者空間の活用可能性を積極的に実行することで、今後の整備・活用に向けた課題・効果等を検証します。

09. 社会実験の検討体制

今治市と地元をまちづくりプレイヤーが協働
公民連携まちづくりの第一歩となる取組

社会実験の実施にあたっては、市民と行政が協働として、実業家の持つ知財・技術・資力などの強みを活かし、実現の可能性を高めることであります。また、市民が主体的に参加する仕組みとする見直しは、これまで以上にワークショップ（ワークショップ）により公開討論が進められること、公開議論が取組を進めていきます。

今後各参加企業コンベンツでの集まり、関係者への参画を促すほか、市民の参画の場を広げたとの認識を定めます。

公民連携によるまちづくりの取組について

今治市では今後の公共施設・都市基盤の整備にあり、まちづくりに関する取組と連携することによって地域の魅力を最大化することを目標としています。そのため、これまで地元をまちづくりに関わるプレイヤーの皆さまと協議や関係作りをアポイント、まちづくり市民会議など様々な場で意見交換を積み重ねてきました。

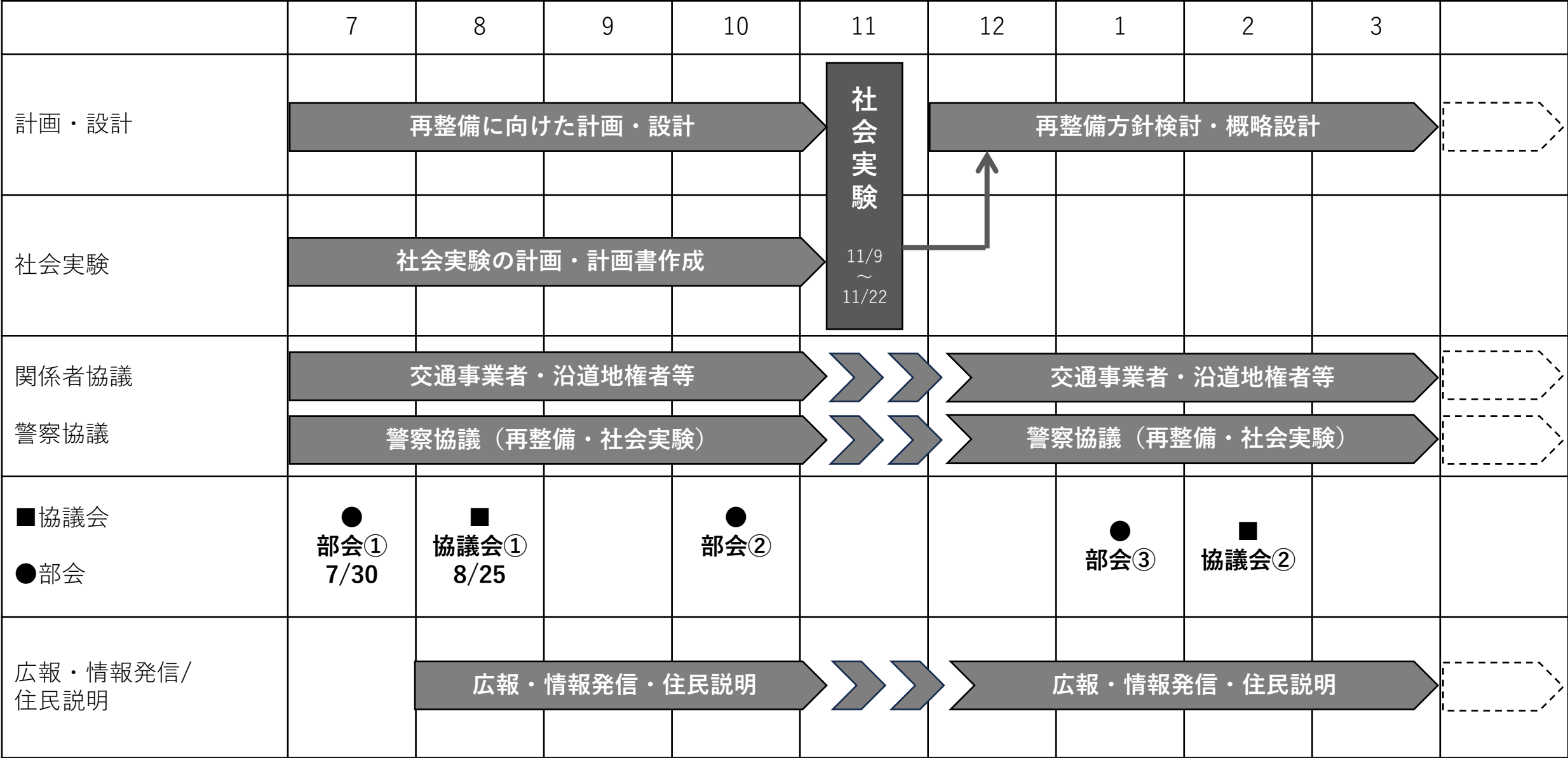
本年夏の公民連携による社会実験についても、単発イベントではなく、その後の整備・活用に関するまちづくりの実践につながる形で、地元をまちづくりに関わるプレイヤーの皆さんと一緒に話し合いが企画・運営を進めています。

2025年7月20日に実施した「中心市街地まちづくり市民会議2025」の様子

2 -

[illegible]

広小路（今治港線）再整備に関する今年度の進め方のイメージ



3. 意見交換①

4. 中心市街地における関連する検討・取組について

- シビックゾーンでの公共施設整備
- 中心市街地全体での都市基盤整備

(1) ネウボラ拠点施設
●事業者公募中
○R12年度供用開始（予定）

- (2) 県・市合同庁舎
●基本計画を作成中

- (3) M I C E 施設
●基本計画を作成中

- (4) 新設道路
 ●関係者と協議中
 ●測量設計等を実施中

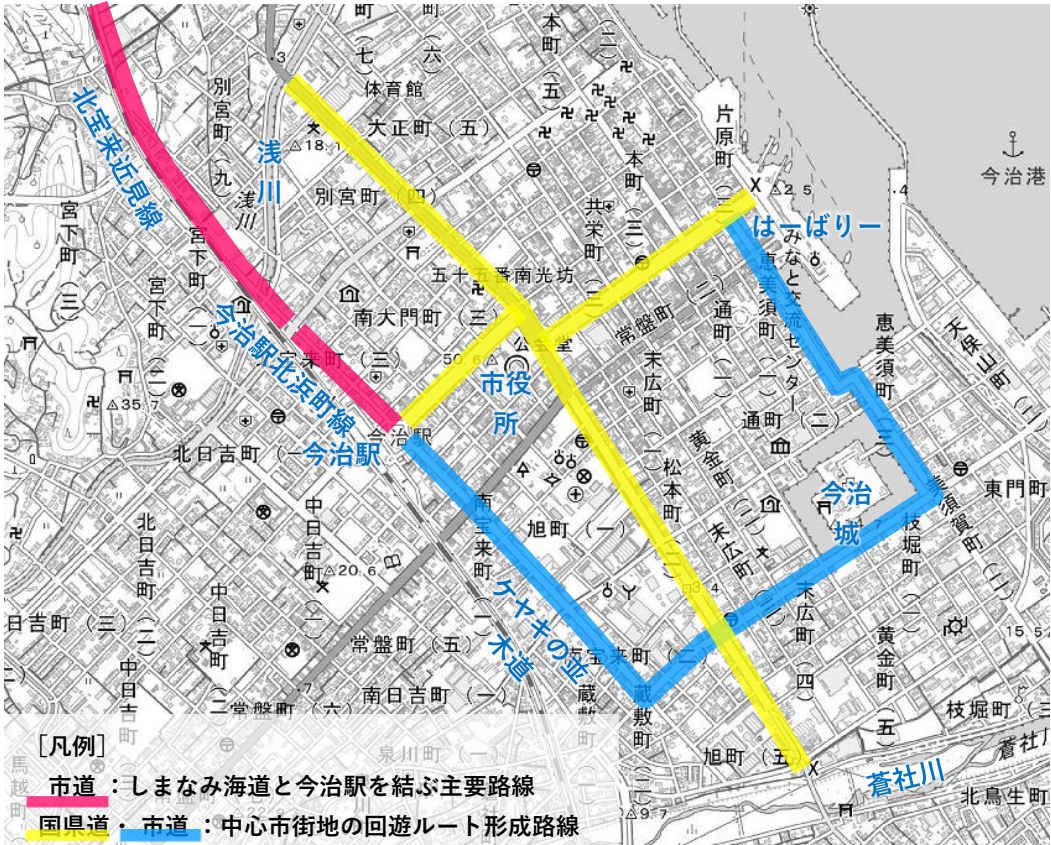
【凡例】

●現状・経過 ○今後の予定

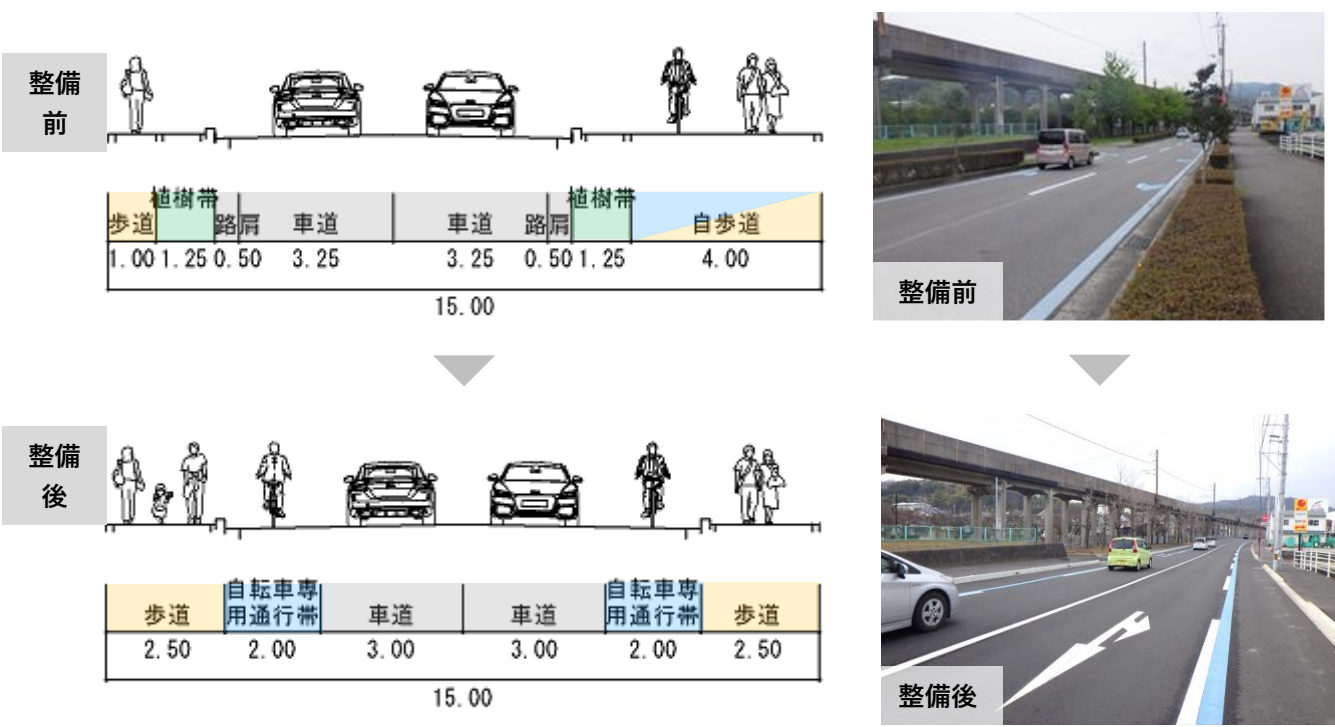


自転車通行環境整備

- 自転車ネットワーク計画に基づき、幅員再配分により安全で快適な自転車走行環境を整備する
- しまなみ海道と今治駅を結ぶ主要路線を整備し、Velo-city開催までの全線供用を目指す
- 今後は中心市街地における自転車利用の機運を高め、賑わい創出に繋げるため、自転車回遊ルートの形成に向けた整備を行う



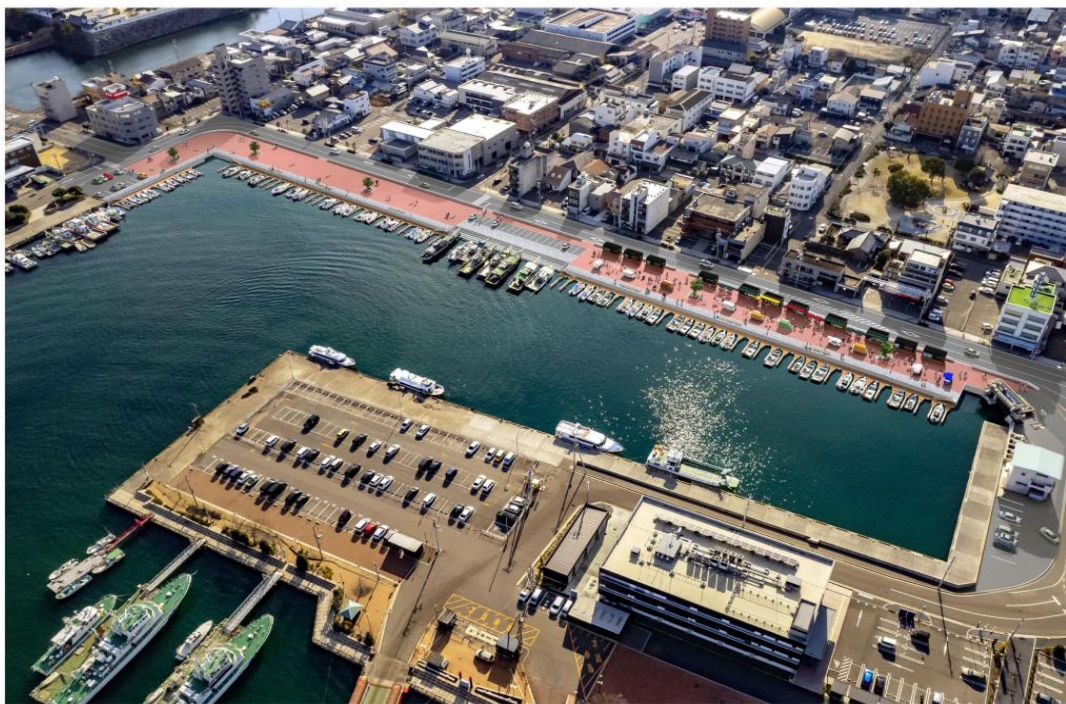
自転車ネットワーク計画路線 中心市街地整備位置図



北宝来近見線 標準断面図、現地写真
(上段：整備前、下段：整備後)

今治港港湾改修

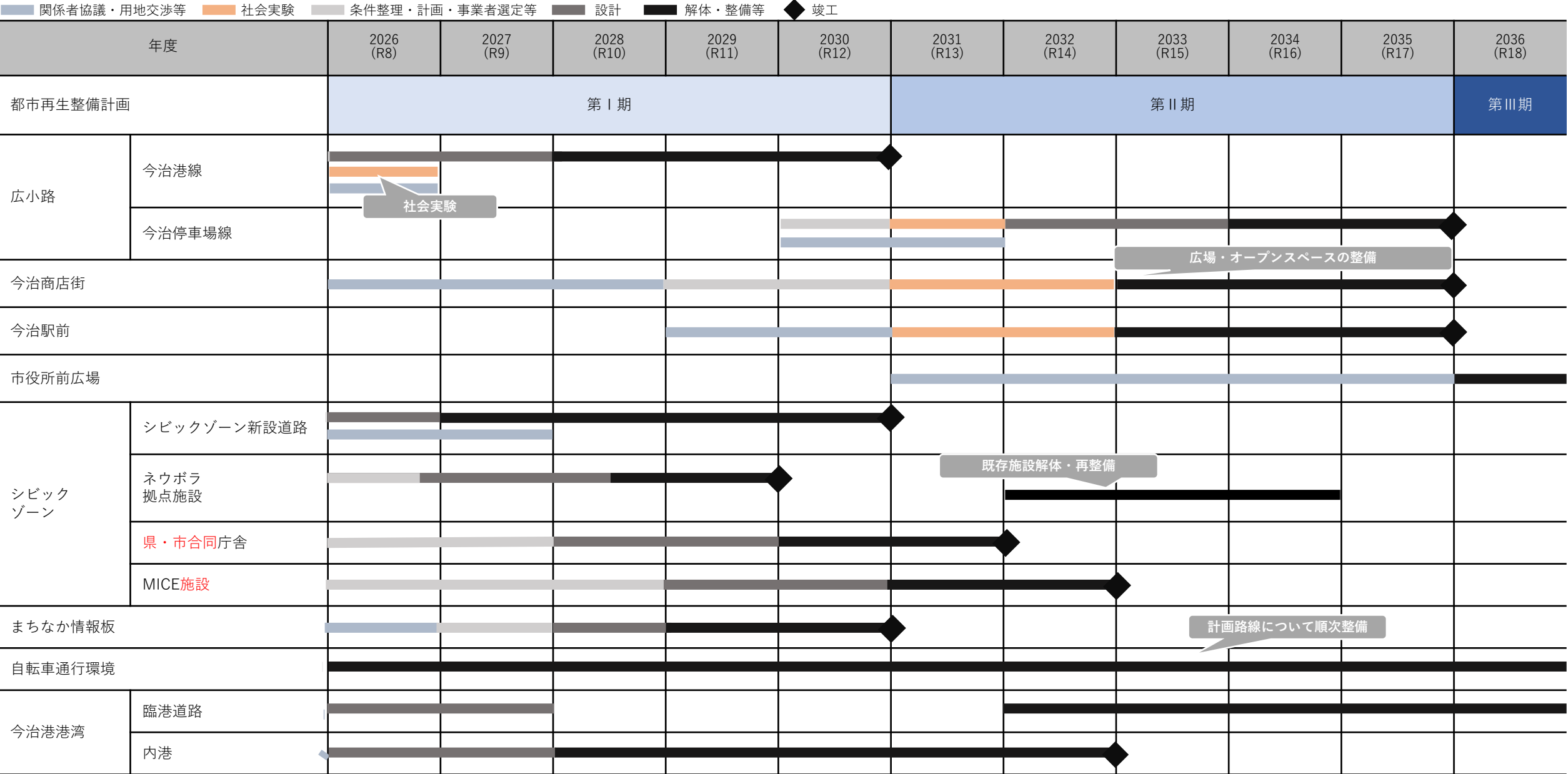
- ・ 内港エリアの改築について、グランドデザインでの「ミズベ・ウォーク」の構想を踏まえ、防災減災や老朽化対策だけでなく、水辺を生かした歩行者空間・滞留空間としての整備を検討
- ・ 港での「せとうちみなとマルシェ」の賑わいを日常や中心市街地に波及させることを目指す
- ・ R8年3月に「港湾計画の簡易な変更」を実施
- ・ R8年度は公有水面埋立に向けた環境調査等を進める



内港物揚場の将来イメージ（案）

想定される公共事業スケジュール（案）

40



※今後の検討により変更の可能性がある

5. 意見交換②

6. 今後のスケジュール

(参考)

第1回今治市都市再生協議会

日時： 2026年8月25日(火) 13:30～15:30

場所： 今治市役所本館 2 階 庁議室

議題（案）：

- ・ 前年度の専門部会・協議会の振り返り
- ・ 第 1 回専門部会での議論の報告
- ・ 広小路（今治港線）の再整備と社会実験の検討について
- ・ 中心市街地における関連する検討・取組について

第2回公共空間再編専門部会

日時： 2026年10月下旬予定

場所： 今治市みなと交流センター「はーばりー」1階みなとホール

議題（案）：

- ・ 第 1 回専門部会での議論の振り返り
- ・ 広小路（今治港線）の社会実験について
- ・ 中心市街地における関連する検討・取組について
- ・ 中心市街地まちづくり市民会議2026について

R6年度



各団体の発表や基調講演、市による中心市街地まちづくりの方針や将来ビジョンの説明

R7年度



グループワークやディスカッションによる参加型・対話型のプログラム

R8年度

1. グランドデザインでの計画内容や取り組みを発信し、地域住民・関係事業者等との議論の輪を広げる
2. 広小路（今治港線）をはじめ今後の公共空間再編整備・活用の機運醸成につなげる

企画例①

グランドデザイン展覧会

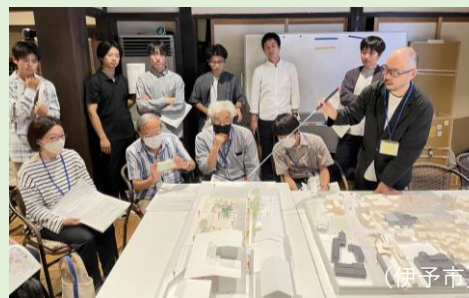
グランドデザインをはじめ中心市街地まちづくりでの取組をパネル等で展示



企画例②

デザインワークショップ

広小路（今治港線）の再整備後の利用・活用について、模型等を用いて意見交換



企画例③

車座ディスカッション

「まちなか」の未来と自身の関わりについて考えて、今後実現したいことやそのために必要なことについて語り合う



今年度のプログラム・開催時期については現在検討中
※社会実験に合わせて実施する可能性も